

2人とつながって

(5) 支え合いや助け合いに感謝して

P.88~95

2-(5)

日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それにこたえる。

1 この内容項目のページの特徴

高学年の段階においては、感謝の対象が人だけではなく、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはそのような中で自分が生きていることに對する感謝にまで広げていく必要がある。また、それに応えて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践できるよう指導することが求められている。

八十八・八十九ページでは、人は支え合い、助け合いながら生きていくことについて気付くことができる。また、普段何気なく使っている「ありがとう」という言葉の意味についても考えることができる。九十・九十一ページでは、具体的には、どのような人の世話になりながら自分の毎日の生活が成り立っているのか、そして、その思いに自分はどうのように応えていけばよいのかについて考えられる構成になっている。

本内容項目のページを通して、支え合いや助け合いに感謝して、それに応えようとする態度を育てていくようにしたい。

2 活用のポイント

日常生活場面において、児童が当たり前と思いきや受けている事柄のいくつかを具体的に取上げながら、それが、多くの人々の支えや助けによる恩恵であることを

理解させ、その有り難さを感じ取らせるようにしたい。そして、支えてくれる人たちの思いに応えるため、感謝の気持ちをどのように伝えればよいのかについても十分に考えさせることが大切である。

3 活用場面例

道徳の時間

児童が自分自身を振り返って、

支えてくれる人たちがいる私たちの生活に於いて、毎日の生活が成り立っているのは、多くの人々の支え合いや助け合いのおかげである。改めて感謝の気持ちを伝えたい。

学校の中で、自分が世話になっている人々を代表するだけでなく、その人たちの思いについて



P.88~89

も考えるようにする。

また、八十九ページの感謝の言葉の「有難う」や格言の意味についても考え、当たり前前思っていることが、誰かの支えで成り立っていることに気付くことができるようにする。

事例

- ① 八十八ページの三つの写真の場面や、それ以外にも人々に支えられている場面について発表する。
- ② 読み物資料「黄熱病とのたたかい」を読んで話し合う。
- ③ 八十九ページの「有難う」や格言の意味について話し合う。

特別活動

(児童会活動)

全校の児童が日頃から世話になっている、家庭、地域、学校の人々に感謝し、その思いにに応えるためにどのようなどを行えばよいかを考え、十一ページを活



P.90~91

用できる。

日頃世話になっていることを振り返る際には、具体的な場面の写真などを見せながらイメージをもたせて考えられるようにするとよい。

事例

- ① 例えば、日頃世話になっている人に感謝の気持ちを表す「ありがとう集会」などの活動の際に、代表委員会で九十・九十一ページの書き込み欄に記入して、感謝の気持ちを表すためにどのようなことができるかを話し合う。
- ② 書いたことを基に「ありがとう集会」の企画を話し合う。

家庭との連携

九十・九十一ページに書き込んだ内容を紹介し、家人に感謝の気持ちを伝える。その際には、感謝だけではなく、「支え合い」「助け合い」というキーワードを大切にしながら、家の人の支えや助けに応えるために、自分は何ができるかという所まで伝えるようにしたい。

日常生活

八十九ページのマルクス・トゥッリウス・キケロや松下幸之助の言葉を朝の会や帰りの会で紹介したり、廊下や教室等に拡大掲示したりして感謝について意識を高めるようにする。日頃、当たり前前だと思っていることが多くの人々の支えによって成り立っていることを意識させるようにしたい。

1 資料の特性

主人公の野口英世は、数々の苦難を乗り越え、世界を舞台上に活躍する医学者となったが、そこに至るまでには数多くの支援者がいたこと、そしてその支えに応えようと必死に研究に取り組んできたことが伝わってくる資料である。

英世を懸命に支え続けた多くの人々の思いに触れることで、児童は自分自身の日々の生活もまた人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付くことができる。また、研究に打ち込み、懸命に努力する英世の姿を通して、世話になった人々に対する感謝の念と、それに応えようとする英世の強い思いを感じることができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、英世が夢を実現しようと努力する過程で忘れることなくもち続けた多くの支援者への感謝の念と、その人々の思いに応えたいと願う英世の生き方について考え、話し合いを深めていくようにする。また、児童自らが周囲の人々に感謝し、それに応えようとする実践意欲につながるような指導を心掛けるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

自分の生活を支えてくれていてる人に感謝の気持ちをもち、それに応えようとする態度を育てる。

事例①

英世の思いを通して、感謝について考える展開

【主な学習】

- ①世界的な医学者になっているにもかかわらず、自分を情けなく思っている英世は、どのような思いか。
 - ・皆さんに助けてもらえばかりで申し訳ない。
 - ・応援してくれている皆さんに恩返しはまだできていない。なんとかしたいができない。
 - ②体の調子が悪くて不安なのに、エクスアドルに行くことを決めている英世は、どのような思いなのか。
 - ・なんとかして黄熱病で苦しむ人を助けたい。
 - ・皆さんの期待に応えなければならぬ。早く行って病気の研究をし、恩返しをしなくては。
 - ③フレキシナー所長の反対を押し切ってまでもアフリカに向かう英世は、どのようなことを考えているのだろうか。
 - ・病気の人たちの命を救うのは、私しかない。
 - ・もう少しで病原体を突き止め、黄熱病から世界中の人々を救うことができる。早くアフリカで研究をしたい。
- 今まで、多くの人たちに私は支えられてきた。その人たちの期待になんとか応えなければならぬ。

◎ 役割演技の活用

フレキシナー所長が英世を気遣い、アフリカ行きを止めている場面で役割演技を行うこともできる。

教師がフレキシナー所長役になって、野口英世役の児童に、アフリカ行きをやめるように声を掛ける。

英世役は、できるだけ多くの児童に行わせる。児童からは、

- ・今までの支援に応えたい。
- ・皆さんの期待に応えたい。
- ・恩返しをするために、もっと研究をしてたくさんのお客の命を救いたい。
- ・などの反応が出るのが考えられる。

多くの人々に支えられていた英世がその恩に報いようとしている思いについて即興的に演じることや友達の見学を通して、自分との関わりで感じ取らせるようにする。



事例②
人々の支えに感謝し、それに応えることについて考える展開

【主な学習】

- ①熱心に研究に打ち込んだ英世は、支えてくれた周りの人に対してどのような思いをもっていたか。
 - ・自分が研究に打ち込めるのは、自分を励ましてくれる母や研究生活を親身になって支えてくれたフレキシナー所長をはじめ、多くの人々のおかげだ。
 - ・自分の研究を頑張り続けたい。それが支えてくれている人の思いに応えることだ。
- ②九十ページに、自分を支えてくれている人とその思いについて、気付いたことを書いて発表する。
 - ・お母さんは、仕事をしながら、毎日、ご飯を作ったり洗濯をしたりしてくれている。家族や私のことを大切に思ってくれている。
 - ・毎朝、交通安全指導をしてくれる地域の人のお陰で僕たちは、安全に通学できている。
- ③九十一ページに、支えてくれている人の思いに応えるためにどのようなことをしてみたいか書いて発表しよう。
 - ・お母さんの思いに応えるために、もっと家の手伝いをしてほしい。今度からごみ出しをするようにしてほしい。
 - ・今度の収穫祭に地域の人を招待して、感謝の思いを伝えたい。

3 命をいとおごせ

(1) 自他の生命を尊重して

P.98~107

3-(1)

生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである自他の生命を尊重する心を育てることと密接に関連している項目である。生きることの尊さ、生きることのすばらしさを考え、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念を育てることが求められる。

本内容項目のページでは、生命のかけがえのなさや支え合う命、受け継がれる命、生と死などについて写真や文章から考えたり、自分の命について書き込み欄に記入し、家族と話し合ったりすることができ構成になっている。

児童一人一人に命の大切さとその命を支え守ってこれている人々の思いに気付かせ、自他の生命を尊重しようとする態度を育てていくようにしたい。

2 活用のポイント

先祖から受け継がれ、様々な人に支えられて今、ここに自らの命があることを実感させることが重要である。そのために、写真や文章を手掛かりにして、自分の命の様々な関わりについて考えを深められるようにしていきたい。

生命がかけがえないものであることを知り、自他の生命を尊重する。

たい。また、命のつながりや関わりを意識する観点から、家族や地域の人と共に考え、話し合うような活用の工夫をしていきたい。

3 活用場面例
道徳の時間

九十八ページを読むことで、命のかけがえのなさや考え、感じ取ることができ。

九十九ページの「人類愛の金メダル」は、道徳の時間の中心的な資料として活用したり、終末の段階で読み聞かせたりするなど、多様な活用が期待できる。

また、一〇〇・一〇一ページを手掛かりにして、自分の生命を見守り、支えてくれている人との様々な関わりを考えることができる。



P.98~99

事例

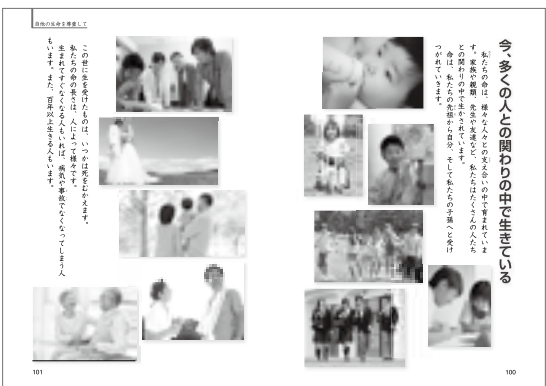
- ① 九十八ページを読み、生命について考える。
- ② 読み物資料「その思いを受けついで」を読んで話し合う。
- ③ 一〇〇・一〇一ページを読み、自分の命について考え、精一杯生きるといふことについて話し合う。
- ④ 「人類愛の金メダル」を読んで、命の大切さについて感じたことを発表した。

国語科

国語科の内容「C 読むこと」の「(1) 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」の指導事項と関連して、生命をテーマとした本を読み、生命の大切さや自分の生き方について考えていくきっかけにする。

事例

- ① 生命の尊さについて考え、詩に表して発表するという目当てをもつ。
- ② 一〇〇・一〇一ページを読んで、生命について感じたり考えたりしたことを話し合う。
- ③ 「人類愛の金メダル」を読み、生命について考える。
- ④ 生命に関する本を選



P.100~101

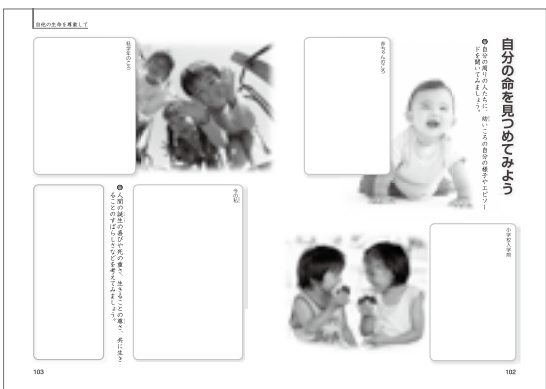
事例

家庭と連携して一〇二・一〇三ページを活用し、今まで成長してきた自分の命を時系列で考える。自分の幼い頃の話を家族に聞いたり調べたりする中で、周りの人から愛され、大切にされて生きていることを実感することができる。

家庭との連携

- ⑤ 自分が読んだ本や生命について考えたことなどをグループで話し合う。
- ⑥ 生命について、感じたことやこれから大事にしていきたいことなどを詩で表現する。
- ⑦ 詩の発表会を行い、考えをさらに広げる。

- ① 家族や周りの人に自分の幼い頃の様子を聞き、一〇二・一〇三ページにまとめる。
- ② 家族や周りの人から話を聞いて、誕生の喜びや生きることの尊さ、すばらしさなどについて感じたこと考えたことを一〇三ページに書き込んで発表する。



P.102~103

1 資料の特性

祖父の最期を看取る大地の思いや、家族の愛情を通して、生命の有限性や尊さを感じ取ることでできる資料である。毎日祖父の見舞いに行つて少しでも元氣付けようとする大地の思いを、丁寧と考えさせるようにしたい。また、祖父の大地への思いをはじめ、家族の愛情やつながりを考えることで、生命のつながりについても考えることができる。

生命の有限性、連続性に着目させながら、自他の生命を尊重する態度を育むことができる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、自分や家族の生命と照らし合わせて、その尊さを考えさせたい。また、生命の有限性について考えることを通して精一杯生きていくことの大切さを感じ取らせるようにしたい。

生命は、祖先から脈々と受け継がれているものであること、そして他者とも広くつながっているものであることなど、生命を多面的に捉えることでそのかけがえのなさを実感させ、自他の生命を尊重する態度を養っていく必要がある。そのため、家庭や地域と連携して、様々な観点から生命について考える機会をもつことが望まれる。

事例②

大地の祖父の死を通して、限りある生命について考える展開

【主な学習】

- ① じいちゃんが亡くなったとき、大地は、どのようなことを思ったか。
 - ・ いつまでもじいちゃんと一緒にいたかった。死んでしまったなんて信じられない。
 - ・ 涙が止まらないくらい悲しい。もっといろんなことをしてあげたかった。
- ② じいちゃんの手紙を読んで、大地はどのようなことを思ったか。
 - ・ じいちゃんは亡くなってしまったけれど、いつまでも僕のことを見守ってくれているんだ。
 - ・ じいちゃんから受け継いだ命を大切にしたい。
 - ・ 人に恥ずかしくないよう精一杯生きていきたい。
- ③ 限りある命を大切にして生きた人の話を知っているか。それは、どのようなことか。
 - ・ 自分の命がなくなるときまでチェロの演奏をしていた音楽家の話を聞いた。
 - ・ がんで苦しいのに、命の大切さを訴えた人の番組を見た。
- ④ 生命を尊重することについて感じたり考えたりしたことはあるか。それは、どのようなことか。

※参観日などに家庭や地域の人と一緒に話し合うこともできる。

3 展開例

【ねらい】

死の重さや生きることの尊さなどを感じ、自他の生命を尊重する態度を育てる。

事例①

大地の思いを通して、生命のかけがえのなさについて考える展開

【主な学習】

- ① じいちゃんの命があと三か月と知らされた大地は、どのようなことを考えたか。
 - ・ 信じられない。悲しい。
 - ・ うそであって欲しい。死んでしまうなんて考えられない。
- ② 毎日じいちゃんの所に通う大地は、じいちゃんとの残された日々をどのような気持ちで過ごしていたのか。
 - ・ 少しでも長生きしてほしい。死なないでほしい。
 - ・ 元氣付ければ、よくなってくれるのではないか。
- ③ じいちゃんが亡くなり、残された手紙を読んで、大地はどのようなことを思ったか。
 - ・ もっと生きていて欲しかった。
 - ・ じいちゃんの分まで強く生きていこう。じいちゃん、今までありがとう。
- ④ これまでに生命のかけがえのなさを感じたことはあるか。それは、どのようなことか。

三の視点 重点ページ

かけがえのない命

1 このページの特徴

東日本大震災での体験を綴った中学生の作文である。生命が危険にさらされる恐ろしさだけでなく、そこから力強く生き抜こうとする思いや、あの日のことを確かに伝え、共に未来を拓いていこうとする強い意志が感じられる。家庭や地域の人と一緒に、生命の尊さについて深く考えていくことができる資料である。

2 活用事例

■ 家庭との連携

公開授業の際、家庭や地域の人に対して授業参加を促す。児童と共に本資料を読み、話合いに参加してもらうことで、児童は様々な視点から生命の尊さについて考えを深めることができる。



P.108~109

P.108~109

3 命をいとおしんで

(2) 自然の偉大さを知って

P.110~113

3-(2)

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしている。

1 この内容項目のページの特徴

自然環境と人間の関わりから、人間も自然の中で生かされていることや、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自然環境を大切にしようとする態度を育むことが求められる内容項目である。

本内容項目のページでは、自然の美しさや不思議さ、また壊されていく自然環境について写真や文章で表したり、自然を愛した作家、宮沢賢治のことを紹介したりするなど、自然と人との関わりについて多面的に考えられるようになっていく。また、一一一ページの書き込み欄は、自然環境保護についての自分の考えを書いたり、学級で話し合ったりして活用し、自然愛護に関する考えを深めることができる。

2 活用のポイント

環境問題については、各教科や総合的な学習の時間などでも取り扱われることがあるテーマである。本内容項目のページを手掛かりにしながら、他の教科等との関連を図って自然環境を大切にすることについて幅広く考えを深めていくことが大切である。

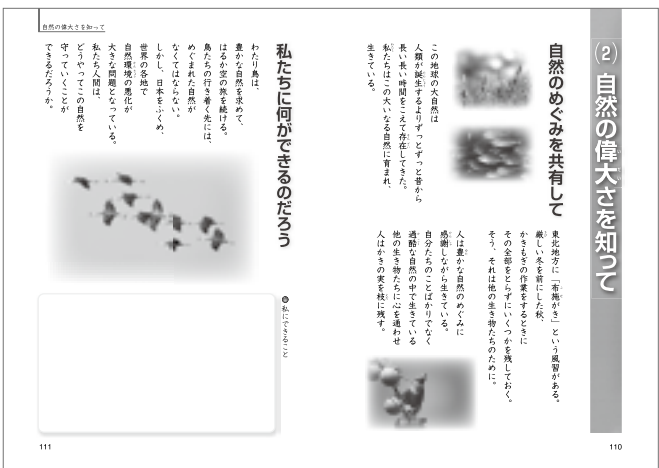
3 活用場面例

道徳の時間

一一〇・一一一ページは、自然との共存、自然環境保護に関する問題意識を喚起したり、自然環境と自分との関わりを見つめたりする際に活用できる。

事例

- ① 一一〇ページを読んで、人間と自然との共存について考える。
- ② 読み物資料を読んで話し合う。
- ③ 自分と自然環境



P.110~111

境との関わりについて、一一一ページを読み、「私にできること」に書き込んで考えを話し合う。

国語科

国語科の内容「C 読むこと」の「(1)カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」の指導事項と関連して、自然に関する本を読み、自然を大切にすることなどについて考えていく際に活用できる。

事例

- ① 自然について考えたことをまとめ、意見発表会を行うという目当てをもつ。
- ② 一一三ページを読んで、宮沢賢治の自然への思いに触れる。
- ③ 自然を題材にした宮沢賢治の作品や、金子みすゞなど、自然を愛した作家の作品を読み、自然についての考えをまとめる。



P.112~113

社会科

第五学年の内容「(1)エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」などを学習する際に、環境について考える手掛かりとして、一一二ページを活用することができる。

事例

- ① 一一二ページを読み、環境破壊に対しての問題意識を高める。
- ② 環境破壊が起こってしまう理由やその解決策について、様々な資料やデータから読み取ったこと、また、これまでの学習を生かして考え話し合う。

理科

第六学年の内容「B (3) 生物と環境」などを学習する際に、自然のすばらしさや不思議さについて考える手掛かりとして、一一〇ページを活用することができる。

事例

- ① 一一〇ページを読み、自然の知恵や不思議を感じ、学習への意欲を高めるとともに問題意識を高める。
- ② 理科の教科書や資料を読んで、学習課題を設定し、単元全体の見通しをもつ。
- ③ 学習課題について、観察したり資料を活用して調べたりして、生物と環境との関わりについての考えをもつ。

3 命をいとおしんで

(3) 大いなるものを感じて

P.114~117

3-(3)

美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

人間の心の崇高さや真理を求めぬ姿、自分の可能性に挑戦する姿、芸術作品に込められた人間の業を超えるもの、大自然の摂理などに感動し、それらに対する畏敬の念をもつことが求められる内容項目である。これらの学習を通して、人間としての在り方をより深い所から見つめ直していくことが大切になる。

本内容項目のページでは、自然の美しさ、美しいものを追求する人間の姿などが写真や絵、文章によって表現されている。これらを生かして、具体的に児童が感じる「美しいもの」に対する考えを深めていくことができる。

2 活用のポイント

「美しいもの」や「大いなるもの」との関わりは、児童一人一人の日常生活での経験の差が大きいと予想される。そのため、本内容項目を学習するに当たっては、各教科等との関連を図り、児童が芸術作品や大自然の摂理に触れられる機会を意図的に設けるよう計画することが重要である。

例えば、音楽科や図画工作科などにおいて作品を鑑賞する際には、自分なりに感じたことを意見交流するなどして感性を豊かに育んでいく。こうした学習に際して、

までの感動体験を發表し合う。

② 読み物資料を読んで話し合う。

③ 「美しい地球 生命宿る地球」を読んで感じたことや考えたことを話し合う。

■ 図画工作科

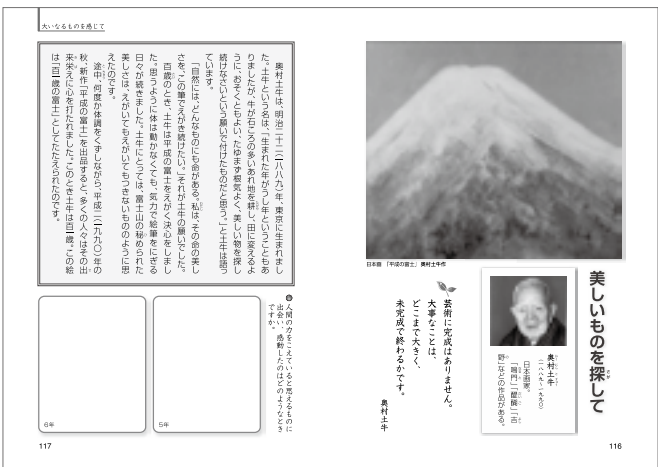
一一六・一一七ページは、豊かな情操を養う観点から、図画工作科の鑑賞の学習活動において活用することができると考える。

事例

① 一一六ページの絵を鑑賞し、感じ取ったことを形や色などを根拠に話し合う。

② 一一六ページの奥村土牛の言葉や一一七ページの文章を読んで、芸術表現に込めた土牛の思いや考えについて話し合う。

③ 土牛の他の作品やその他の画家の絵を見て、感じ取ったことを話し合う。



P.116~117

本内容項目のページを関連付けて活用したい。

3 活用場面例
道徳の時間

一一五ページ

の「美しい地球 生命宿る地球」に書かれた生命力あふれる美しい地球の姿から、人間の力を超えたものに感動する心を育んでいくことができる。

事例

① 一一四ページを読んで「美しいもの」や「人間の力を超えたもの」に対するこれ



P.114~115

■ 家庭との連携

学習した内容を学級通信等で紹介し、児童が家庭や地域で「美しいもの」や「人間の力を超えたもの」に出会ったときに感じたことを家の人と話し合えるよう、協力を依頼する。

また、児童が感じた「美しいもの」や「人間の力を超えたもの」の写真を学校に持って来て紹介し合う活動なども考えられる。

「美しいもの」や「人間の力を超えたもの」と出会い、感動するような出来事は、学校外での体験が多いことが予想されるため、一一四から一一七ページについては、家庭でも折に触れて活用してもらうように促す。

事例

① 一一四から一一七ページについて、道徳の時間に学習したことを学級通信等で家の人に紹介する。

② 「美しいもの」や「人間の力を超えたもの」に出会ったときの感動や思いを家の人と話し合う。

③ 児童が見付けた美しいと思ったものなどの写真を学校に持って来て、感じたことや考えたことと共に紹介し合う。

④ 学習後、感じたことの意見を写真に添えて教室に掲示し、参観日等で家庭や地域の人に見てもらおう。

⑤ 児童の学校外での活動が多くなる長期休業の際などに、児童の経験と照らして、一一四から一一七ページを活用して家庭で話し合ってもらおうよう、学級通信等で依頼しておく。